

うらほろレポート

はじめまして！！

NPO日本のうらほろに協力させていただいている、明治大学商学部商学科水野勝之ゼミナール北海道班です！
今月号からこちらの紙面をお借りして中学生の提言が浦幌町にどのように生かされているかをお伝えします。
どうぞよろしくお願ひいたします。



明治大学水野ゼミナール

写真前列左から佐藤奈々子（東京都出身）、西川純平（鹿児島県出身）
写真後列左から内田莉菜（埼玉県出身）、閑頬子（栃木県出身）、西富友輝（鳥取県出身）



7日に行われました。中学生は朝8時半に学校を出発し、午前中の間、浦幌発祥の地や戦争遺産トーチカ、昆布刈石展望台など、浦幌の魅力ある地を巡ったそうです。また、ツアーセンター中に役場の方が、昔の浦幌の人々の暮らしや戦時の話をしてくださいました。そこで、今回中学生は、浦幌の歴史や自然と実際に触れ合いながら浦幌の魅力を発見し、浦幌の昔の様子をイメージしながらツアーリーに参加できたわけです。

東京近郊に住む私達が受けたてきた郷土教育といえれば、文献に基づいた勉強や博物館・郷土資料館といった、

で、視覚・聴覚のみの、五感をフルに使う必要のないものでした。また、私達が住んでいる地域には、史跡等が目に見える形で残つてすらないないことがほとんどです。

一方、浦幌の場合、実際に史跡等に行き、子供達が五感をフルに働かせることにより、自らの力で町の魅力に気づくことができています。このことは、ツアーリーに参加した浦幌中学校3年生の松田君・上村君・谷向君へのインタビューからもわかります。私達の勉強と同様、視覚と聴覚を使って、いたことはもちろんのこと、触覚を使って魅力を味わうことができたといえるのが、彼らが今回のツアーリーで一番楽しかったと言っていた留真温泉です。ここでは五右衛門風呂体验をしたそうで、お湯に使った感想として、お湯がぬるかったことや、お湯についているだけ

浦幌の中学生が町の魅力を見バスツアーリー」があります。今年のバスツアーリーは、7月

五感で学ぶバスツアーリー

取材&文・明治大学水野ゼミナール

で、視覚・聴覚のみの、五感をフルに使う必要のないものでした。また、私達が住んでいる地域には、史跡等が目に見える形で残つてすらいないことがほとんどです。

一方、浦幌の場合、実際に史跡等に行き、子供達が五感をフルに働かせることにより、自らの力で町の魅力に気づくことができています。このことは、ツアーリーに参加した浦幌中学校3年生の松田君・上村君・谷向君へのインタビューからもわかります。私達の勉強と同様、視覚と聴覚を使って、いたことはもちろんのこと、触覚を使って魅力を味わうことができたといえるのが、彼らが今回のツアーリーで一番楽しかったと言っていた留真温泉です。ここでは五右衛門風呂体验をしたそうで、お湯に使った感想として、お湯がぬるかったことや、お湯についているだけ

かつた後、肌がツルツルになつたことを挙げてくれました。また、お昼ごはんには、昨年度の3年生が考案した、浦幌の食材を使ったお弁当を食べたそうです。ここでは味覚を使っています。さらに、留真温泉の香りや、昆布刈石展望台へ行つたときの海風の香りなど、彼らが話に挙げたものの中には、嗅覚を働かせていました場面もありました。以上のように、浦幌の中学生は、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚を働かせながら、町の魅力を知ることができたのです。

つまり東京近郊の教育と違つて、心から、そして体全体で学ぶことによって、町への提案が生まれるのであります。次回より、その実現した提案に対して私たちが紹介しましょう。